

FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd,4-Rd,6 OTGmotorsports REPORT

10月24日(Round.4-5) | 天候:晴 | コース:鈴鹿サーキット |
10月25日(Round.6) | 天候:晴 | コース:鈴鹿サーキット |



従来の予定から半年遅れでスタートした 2020 年の FIA-F4 選手権は、10 月 3 日 -4 日に富士スピードウェイで開幕を迎え、第 2 大会が 10 月 24 日 (土) -25 日 (日) の 2 日間にかけて鈴鹿サーキットで開催された。

例年通りに国内の 6 サーキットで 14 戦が実施されるはずだった FIA-F4 選手権は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって SUPER GT の日程が変更されたことを受けて、1 大会 3 戦で争う計 4 大会 12 戦のシリーズ戦となった。

OTG motorsports から今シーズンの FIA-F4 選手権を戦うのは #80 伊東黎明選手で、彼は FIA-F4 選手権のスカラシップ制度「FIA F4 JAPANESE CHALLENGE」の 4 代目ドライバーとなる。まだジュニアフォーミュラのレース経験が 2 年目の若手ドライバーだが、開幕ラウンドでは 3 戦ともにトップ 10 内を走りポイントを積み重ねた。第 2 大会の開催コースの鈴鹿サーキットは、昨年のスーパー FJ 日本一決定戦でポールポジションを獲得した相性の良いサーキットで、開幕戦の富士スピードウェイより走行経験があることで、自信を持って大会へ挑むこととなった。



<予選>

第4戦と第5戦のスターティンググリッドを決める予選は、24日（土）の8時30分から30分間で実施された。路面コンディションはドライで、伊東選手は開始早々にコースイン。3周に亘ってウォームアップを行なうと、計測4周目からアタックを開始する。まずは2分9秒台のタイムを記録すると、翌周には2分8秒912をマーク。この時点でタイミングモニターの5番手に伊東選手の名前が表示された。さらにタイムを更新しようとアタックを続けたが、130Rでクラッシュしたマシンのためにセッションが中断してしまう。約10分の中断を経て、予選は残り時間8分で再開された。アタックを続けた伊東選手は計測8周目にセカンドベストとなる2分9秒319をマークするが、これ以上のタイム更新はできず、第4戦と第5戦ともに8位となった。



<第4戦>

予選終了から4時間のインターバルを経た24日（土）の13時から第4戦の決勝レースが11周で競われた。8番手スタートの伊東選手はそれほどスタートが良くなかったというが、前のマシンがスタートに失敗したため1コーナーを6番手で通過する。1周目はポジションをキープしたままコントロールラインを通過するが、シケインで多重クラッシュが発生したためにセーフティカーが導入される。3周に亘ってセーフティカーが先導して、レースは5周目に再開された。前を追いたい伊東選手だったが、タイヤからジャダーがでる状況でタイムが伸ばせずポジションキープを強いられる。8周目には自己ベストタイムの2分9秒199をマークするが、トップ5のラップタイムは伊東選手を上回っていて単独走行となる。レースは、このままの順位で11周目に6位でチェッカーを受けた。



<第5戦>

早朝から予選、昼過ぎに第4戦と競ってきたFIA-F4選手権のドライバー達は、16時過ぎから長い一日を締めくくる第5戦の決勝レースを戦った。第4戦のスタートが思い通りにいかなかった伊東選手は、その反省を活かして8番グリッドから好スタートを切る。1コーナーまでに2台をパスしさらに順位を上げようとしたがS字で多重クラッシュが発生し、レースは開始早々に黄旗が振られた。直後にクラッシュ車両の撤去が敏速にできないと判断され、レースは中断してしまう。21分の中断を経てレースはセーフティカーが先導した状態で再開する。FIA-F4選手権は最大レース時間が30分と決められているために、残り時間が7分しかない状況となる。隊列が整えばレースは残り1周で再開するはずだったが、セーフティカーラン中に後方のマシンがスピンしたために、セーフティカーはピットに戻らず16時45分にチェッカーを受けた。結果として序盤の1/3周しかレースは行なわれなかったが、8番手からスタートした伊東選手は6位でゴールとなった。



<第6戦>

第6戦の決勝レースは25日(日)の9時45分から開始された。第4戦のラップタイムによってグリッドが決められたため、伊東選手は8番グリッドに整列した。スタートでポジションを守った伊東選手は、1周目のヘアピンで1台をパスして7番手に浮上する。しかし2周目の3コーナーで抜き返されて8番手に後退。3周目には先行していた2台がクラッシュしたために6番手に浮上し、4周目には自己ベストタイムの2分8秒526をマークする。徐々に5番手のマシンと差を詰めた伊東選手は、8周目のバックストレートで先行するマシンとテールトゥノーズになり、9周目のホームストレートから1コーナーで5番手に浮上。そして11周目に5位でチェッカーを受けた。

開幕戦からの連続入賞を6戦に伸ばした伊東選手は、ルーキー最上位となるポイントランキング4位で11月7日-8日にツインリンクもてぎで開催される第3大会に向かう。

伊東黎明選手



鈴鹿サーキットは昨年のスーパー FJ 日本一決定戦でポールポジションを獲得したコースなので、ある程度の自信を持って挑みました。事前にテストをさせてもらう機会もあり、公式練習では使用するタイヤやセットアップを詰められました。予選はベストタイムを更新できそうなタイミングで赤旗が出てしまい悔しさが残ります。また、走りをまとめ切れなかったところも反省点です。レースは3戦ともにスタートから順位を上げられて良かったのですが、第4戦、第5戦はまわりのミスによってのポジションアップだったので、自身で抜けるレースをしないといけません。第6戦は先行するマシンの速いところ自分の速いところを判断して、どこでパッシングするか冷静に考えられました。その通りのプランで順位を上げられたことは良かった点です。毎戦、勉強するところが多く、いかに吸収してレースに活かせるかが肝心です。初戦から連続してポイントを重ねられているので、このままの調子を維持してルーキー最上位を確保していきます

